

高 校

研究への扉

大学ゼミ
ノめくり

30

メディア社会学への関心の芽育む

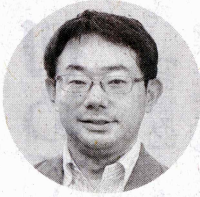
インターネットを使い、誰でも情報発信ができる時代になった。世の中には多くの情報があふれ、読み解く力やメディアを活用して情報を発信する力が求められている。現代社会が抱える問題を踏まえ、学生一人一人の多角的な考察力や豊かな発想力を育成しているのが武蔵大学社会学部メディア社会学科だ。アニメや漫画など、エンタメ系を

切り口にメディアを学ぼうとする学生も少なくないという。 「ゼミの武蔵」と呼ばれる同大学。メディア社会学科でもゼミ活動に力を入れていく。卒業論文の作成に向け、1年次からゼミが位置付けられているのが特徴の一つだ。1年次の「初年次ゼミ（基礎・応用）」では、学生は割り振られた担当教員の下でリポ

ートの書き方やプレゼン、討論の仕方などを学ぶ。2年次の「方法論ゼミ」では、自らの興味・関心に合わせ、教員を選ぶことができる。メディア研究を行う上での方法論を扱う。例えば、アンケート調査やフィールドワーク、映像やウェブサイトの作成などを通じて現場感覚を養っている。 3年次から指導教員の下で卒論作成に取り組む「専門ゼミ」が始まる。ゼミ申請の前には、各ゼミが1カ所集った

てブース形式の説明会を実施している。コロナ禍が明けた昨年度からスタートした取り組みで、本年度は10月上旬に行った。担当教員だけでなく、そのゼミに所属する3・4年生が2年生の質問に答える場合もあるという。

宇田川敦史准教授のゼミでは、デジタル社会のメディア・デザインやメディア・リテラシーなどに関する研究に取り組むことができる。ブース形式のゼミ説明会を終えた後、宇田川准教授は希望者と個別面談を行い、互いのマッチングを図っている。ゼミを運営する上で大切にしているのは、「学生一人一人のメディア社会学への関心の芽をどう育むか」ということ。卒業後を見据え、大学で学んだことを社会でどのように発揮できるかも視野に入れているという。



武蔵大学 宇田川 敦史ゼミ

①

うだがわ・あつし 社会学部メディア社会学科准教授。博士（学際情報学）。民間企業2社で勤務した後、早稲田大学非常勤講師などを経て現職。デジタル・プラットフォームに関するアルゴリズムの社会的な在り方の研究などに取り組む。著書は「AI時代を生き抜くデジタル・メディア論（北樹出版）」。「学生が選ぶベストティーチャー賞」（2023年度）も受賞している。